

第 82 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日 時：2026年3月23日（月）13時30分～15時00分

2. 場 所：日本電気協会 C会議室（Web併用会議）

3. 出席者：（敬称略，順不同）

出席委員：山本議長(日本原子力学会 標準委員会 委員長)，松永議長(日本機械学会 発電設備規格委員会 委員長)，阿部(日本電気協会 原子力規格委員会 委員長)，楠(日本機械学会 発電設備規格委員会 幹事)，高屋(日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長)，西山(日本原子力学会 標準委員会 副委員長)，每熊(日本原子力学会 標準委員会 幹事)，関村(東京大学名誉教授)，吉田(日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長)

常時参加者：岩浅(資源エネルギー庁)，塚部(原子力規制庁)，田中(原子力規制庁)，折田(電気事業連合会)，北山(日本建築学会 原子力建築運営委員会 主査)，松岡(日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局)，井上(日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局)，大沼(日本原子力学会 事務局)，高柳(日本電気協会)，中山(日本電気協会)，浅見(日本電気協会)

オブザーバ：稲本(一般社団法人 日本溶接協会 事業部)，増川(一般社団法人 火力原子力発電技術協会 専務理事)，山本(日本電機工業会 原子力機器標準化専門委員会 委員長)，中島(土木学会 原子力土木委員会 幹事長)，藤中(日本機械学会 幹事補佐)，山中(日本原子力学会)，山田(日本電気協会)，岡田(電事連)，藤崎(電事連)

説明者：成宮(日本原子力学会 標準委員会 委員)，村上(日本電気協会 原子力規格委員会 委員)

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局：景浦，美濃，梅津，上野，川口，山崎（計35名）

4. 配付資料：別紙参照

5. 議 事

原子力関連学協会規格類協議会 事務局から，本委員会にて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないこと及び録音することを確認した。その後事務局より本日の会議の議長は山本議長となるとの紹介があった。

5.1 出席者確認，代理出席者，常時参加者及びオブザーバの紹介

原子力関連学協会規格類協議会 事務局より，参考資料-1に基づき，委員変更の紹介があった。出席委員については12人中9名出席との紹介の後，常時参加者，オブザーバの紹介があった。新委員及びオブザーバの挨拶があり，オブザーバについては原子力関連学協会規格類協議会運営要綱第5条(協議会の開催)第3項に基づき議長の承認を得た。

5.2 前回議事録確認

原子力関連学協会規格類協議会 事務局より、資料 No.82-1 に基づき、前回議事録(案)について紹介があり、特にコメントは無く、正式議事録にすることについて、運営要綱第 7 条（決議）に基づき決議の結果、承認された。

5.3 審議事項

(1) 原子力関連学協会規格類協議会の課題案について

山本議長より、原子力関連学協会規格類協議会の課題について新規案件の有無を確認後、ステートメント改定についての議論が行われた。

前回（第 81 回）会議中及びその後の意見募集で提出された意見及び意見を反映した改定案について、山本議長から資料 No.82-2-1, 2 を用いて説明された。また、原子力学会及び電気協会から提出された意見（資料 No.82-2-4, 5）について、成宮説明者（日本原子力学会）、阿部委員及び村上説明者（日本電気協会）より説明がなされ、その後改定内容についての議論が行われた。

- ・ 原子力学会コメント及び対応（案）は、意見書（資料 No. 82-2-5）及びコメント対応リスト（資料 No.82-2-1：13～17）で示された。
 - ・ IRIDM 標準の記載は例示であり、特定標準の連携方針を求めるものではないことを確認
 - ・ 安全目標・性能目標の議論は、規格類協議会で取り扱うことは難易度が高いとの認識を共有、引き続き検討
 - ・ 人材確保はキャリア目標・組織的な条件整備の観点も重要との指摘あり
- ・ 電気協会コメント及び対応（案）は意見書（資料 No.82-2-4）及びコメント対応リスト（資料 No.82-2-1：10～12）で示された。
 - ・ IRIDM の推進について：「着実に推進する」という表現では不十分ではないかとの問題提起。新規規格を増やすのではなく、既存規格の中にリスク情報活用を織り込むことが望ましいとの意見
 - ・ コーディネーションについて：「意見交換」という曖昧な表現ではなく、規格が実際に使われるための実効的なコーディネートを目指すべきとの指摘
- ・ 本日の議論を参考にステートメント改定修正案を山本議長が作成することとなり、作成したステートメント改定修正案については、各委員へ確認頂くこととなった。

（主なご意見・コメント）

- ・ 日本機械学会だが、前回（81 回）で意見を出ささせていただき、改定案を修正いただいているので、現段階で追加はない。コーディネートについては、この協議会での継続的な意見交換で対応可能であると考え。また、リスク情報活用については機械学会内で 2 つのタスク（リスク情報活用タスクと目標信頼性検討タスク）が活動中である。
- ・ 原子力規制庁だが、ステートメント改定案に違和感は無く、コミュニケーションの重要性が明記されているので、コメントは特にない。

- ・ 日本電気協会だが、原子力規制庁から規格の技術評価に伴い庁内で実施しているいわゆる法令審査（規格本文が法令に照らして適切な表現ができていないかの審査）に多大な労力を費やしているということに伴い、規格策定段階からできるだけコメントを出せるよう、積極的に関わってゆくとの申し出があった。この法令審査に資するかわからないが、AI を使った規格修正を試行しており、いずれ結果を報告できると考える。
- 原子力規制庁だが、当該申し出についてはフォローしきれていないが、恐らく規制基準の要求事項に適合していることを文章で記載してほしいという観点と考える。技術評価の要望があった規格については規格策定段階から規制庁職員が参加する取り組みについて原子力規制委員会の委員からも理解を得られており、推進する。
- ・ 原子力学会だが、IRIDM 標準と電気協会の個別規格との関係分析をさらにブレークダウンして進めることが重要である。ピアレビューの仕組みが形骸化してしまっていることが残念である。
 - ・ 原子力学会だが、IRIDM 標準の適用範囲と電気協会の個別規格への展開については、ワーキンググループ形式での議論も有効と考える。
 - ・ 原子力学会として、IRIDM 標準の改定を責任もって進める。個別規格（例として JEAC4209 ）の中に教科書的な記載ではなく、リスク情報を活用する意思決定を行うために必要な具体的なリスク情報活用の留意事項を織り込むことが重要であり、必要に応じ各分科会や検討会に出向いて説明するので、リスク情報を活用したいという規格策定者の方がおられれば、コミュニケーションいただきたい。

5.4 報告事項

(1) 電気事業連合会

- ・ 技術評価を希望する学協会規格（報告）

電気事業連合会 折田副部长より、資料No. 82-3-1に基づき、技術評価を希望する学協会規格について報告があった。

（報告内容）

- ・ 前回の協議会からの変更は、技術評価を希望する規格の追加 3 件と取り下げ 2 件である。
- ・ 追加となった規格（3件）
 - ① JEAG 4208 軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指針
 - ② JSME S ND1 発電用原子力設備規格 配管破損防護設計規格
 - ③ JEAC 4207 軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験規程
- ・ 取り下げとなった規格（2件）
 - ① JSME事例規格（新設計疲労曲線による疲労累積係数の代替計算手法）
 - ② JSME S NA-1 発電用原子力発電設備規格 維持規格

（主なご意見・コメント）

- ・ 原子力規制庁だが、希望されている全体像は確認できた。2028年度に集中している状況を踏まえ、優先順位を整理した上で原子力規制委員会として評価対象を決定していく方針である。

- ・ 各学協会は、対象規格が技術評価にエントリーされていることを考慮し、計画的な規格策定をお願いする。

(2) 各学協会からの報告

1) 日本電気協会

a. 技術評価対応状況について(報告)

日本電気協会事務局より、資料 No. 82-3-2-1-1 に基づき、技術評価対応状況について報告があった。

(主なご意見・コメント)

- ・ 特になし。

b. 2025 年度 JEAC4111 専門コース講習会の結果について

日本電気協会事務局より、資料 No. 82-3-2-1-2 に基づき、2025 年度 JEAC4111 専門コース講習会の開催について報告があった。

(主なご意見・コメント)

- ・ 特になし。

5.5 その他

(1) 第 82 回原子力関連学協会規格類協議会に向けた幹事会について

原子力関連学協会規格類協議会事務局より、資料 No.82-4-1 に基づき、規格類協議会幹事会議事概要について紹介があった。

ステートメント改定案のコメント対応リスト修正案を議論。各学協会からの意見の趣旨確認を実施。実際の修文は本日の議論を踏まえて行うこととした。

(主なご意見・コメント)

- ・ 特になし

(2) 検査制度に関する意見交換会合 (第 18 回, 12 月 12 日)

規格に直接関係する事項はなし

(3) 次回原子力関連学協会規格類協議会開催について

次回規格類協議会については、幹事会を 2026 年 5 月 20 日(水)13 時 30 分から 15 時 30 分、本会議を 2026 年 6 月 9 日(火) 13 時 30 分から 15 時 30 分での開催を予定しているため、予定の確保をお願いする。

以上

第 82 回原子力関連学協会規格類協議会配付資料

82-0	第 82 回原子力関連学協会規格類協議会 議事次第
82-1	第 81 回原子力関連学協会規格類協議会 議事録 (案)
82-2-1	コメント対応リスト_20260323
82-2-2	ステートメント_20260323_履歴あり
82-2-3	ステートメント_20260323_履歴なし
82-2-4	JEA 原子力規格委員会意見(2025 年規格類協議会ステートメント改定案)R1
82-2-5	2025 年規格類協議会ステートメント改定案への原子力学会委員コメント
82-2 参考	原子力安全の向上に向けた学協会活動の強化(20182308)
82-3-1	技術評価戦略ロードマップ (20260323)
82-3-2-1-1	JEAC4601 技術評価実施状況について
82-3-2-1-2	2025 年度 JEAC4111 講習会専門コースの実施結果について(速報)
82-4-1	第 82 回原子力関連学協会規格類協議会 幹事会 議事概要 (2026 年 2 月 18 日)
参考資料-1	原子力関連学協会規格類協議会 名簿
参考資料-2	原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱
参考資料-3	日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格
参考資料-4	日本原子力学会 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況
参考資料-5	日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格
参考資料-6	民間規格の技術評価の実施に係る計画(令和 6, 7 年度)(2024 年 7 月 10 日 第 19 回原子力規制委員会資料 2)